平成23年度
施政方針

「びわ湖源流の郷」キーワードに、元気のある高島市づくりに邁進（まいしん）いたします

平成23年2月28日開会の高島市議会3月定例会において、西川市長が提案した平成23年度の施政方針の全文を紹介します。

私はこれまで、市民の皆様との対話を基本としながら、市民目線を大切にし、現場からの発想を政治信条としてまいりました。

そして市民の代表である議員の皆様ともしっかりと議論を重ね、パートナーシップを大切にしながら、誠心誠意、精励してまいりました。

市政を担当させていただき、いよいよ折り返し点を迎える今、改めてその職責の重大さ、そして市民皆様の期待の大きさを痛感し、初心を忘れることなく、さらに精進してまいりたいと考えております。

この2年間を振り返りますと、多くの地域の会合や行事、そして各種団体の会議やイベントに参加させていただきました。その折に触れ、市民皆様がさまざまな地域活動や交流を通して接し、地域の課題を自ら考え、解決しようとするお取り組みに、地域の絆の深さと力強さを肌で実感してまいりました。

今後は、このように、人と人が支えあう地域づくりを、尚一層進めていかねばならないと考えております。

さて、国政に目を向けますと、国債依存体質からの脱却と財政再建や、社会保障の充実と負担のあり方の問題、米軍普天間飛行場の移転、更には尖閣諸島や北方領土問題など数多くの懸案事項を抱え、また一方では、リーマンショックやドバイショックに端を発した世界的な経済不況からは、やや好転・回復のきざしがうかがえるものの、日本経済は、総じて厳しい状況が続いていると認識しております。

ます。

また、人口減少と少子・高齢化が同時進行するなかで、過去の右肩上がりの成長戦略から、地域の産物や人的資源など地域力を最大限に生かした、持続可能な行財政運営への転換が、全国自治体の共通課題となっております。

このような状況の中で、高島市におきましては、厳しい財政状況下ではありますが、可能な限りの自主財源を確保するとともに、不要・不急な支出の削減と抑制に努め、市民ニーズに沿ったサービスが提供できますよう努力してまいりたいと考えております。

特に財政運営の面では、市の借金であります市債残高が、私が市政を引き継いだ平成20年度末には、一般会計ベースで約３４０億円ございましたが、将来的な財政の硬直化を避け弾力的な財政運営を行うため、10年間で１００億円の元金償還を計画し、積極的な繰上げ償還を進めた結果、平成22年度末の見込みでは、２年間で約33億円の減額と着実に削減が図られているところでございます。

平成23年度は、こうした現状を踏まえながら、高島市の将来をしっかりと見据え、市民の皆様と一緒になって「安心して生活ができる地域社会の実現」を目指してまいりたいと考えております。

また、この変革の時代を、未来を切り開く絶好の機会ととらえ、地域の魅力と活力を高め、市民の皆様が安心して暮らし、次の世代に誇りを持って引き継いでいけるよう、決意を新たにいたしております。

平成23年度の市政運営の方針についてご説明申し上げます。

私はその柱に、「住みたいまち　びわ湖源流の郷　たかしま」の実現を提唱してまいりたいと考えています。

高島市には、琵琶湖があり、平野があり、山があり、これらが、ほど良く調和した美しい景観や自然の営みがあり、固有の生活文化を育んでまいりました。

琵琶湖は、多様な生命を生み、育む「母なる湖（うみ）」であります。高島市の広大な森林は、この命の水をつくる源であり、いくつもの谷筋から川に注ぎ、琵琶湖に流れています。そして、川沿いには、里山や市街地・集落である里住（さとすみ）が拓け、琵琶湖と周辺湖沼への里湖（さとうみ）へとつながる、いわば３つの里が共存してびわ湖源流の郷を創っています。

私は、この琵琶湖の水を育む高島市を「びわ湖源流の郷」と位置付け、これをキーワードとして内外に発信し、人と物が行き交うにぎわいのあるまちづくりに挑戦してまいりたいと考えております。

その基本姿勢に立って、奥山から里山、里住から里湖へとつながる「びわ湖源流の郷」の恵みと共生し、生かしながら「あたたかい・やさしい・思いやり」といった地域の絆づくりと併せて、教育、保健、福祉、医療、介護などの充実に力を注ぎ、「住みたいまち　そして住み続けたいまち　びわ湖源流の郷　たかしま」の実現に取り組んでまいります。

以下、平成23年度に重点的に取り組む、具体的な施策につきまして、順次ご説明をさせていただきます。

なお、平成23年度の事業執行に